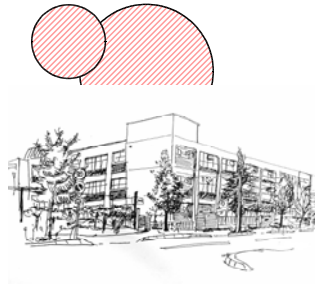


明星中学校だより 知と和と粘り



〒 070-0025 旭川市東5条1丁目

Tel 0166-26-0468

Fax 26-0469

E-mail: myojyo@myojyo.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成24年12月21日

◇第20号◇

日刊北海道通信に掲載されました

平成24年12月13日付 北海道のほとんどの学校で読まれている定期購読誌



子どもの笑顔のために

旭川市明星中の生徒・教員

ユニセフ募金に協力よびかけ

【旭川発】旭川市立明星中学校（増茂薫校長）の有志の生徒と教員百八十二人がこのほど、旭川市内の買物公園で募金を呼びかける「ユニセフ募金活動ハンドインハンド」を実施した。生徒たちは通行人に協力を呼びかけ、善意の募金を集めていた。写真。同校では、生徒会活動の一環として、ユニセフへの募金活動を毎年継続して行っている。当日は一・二年生の生徒百五十八人と教員二十四人の合わせて百八十二人が参加。十三のグループに分かれて、買物公園内十三カ所で募金活動を行った。時折吹雪く天候の中で、生徒たちは「お願いします」と声を上げて、募金を呼びかけ、道行く人の多くが募金に協力していた。中には、同校の卒業生もいて「寒い中頑張っているね」「風邪など引かないようにね」などと生徒に声をかけていた。

シリーズ

部活動

パソコン部部长 重清 智大



僕たち、パソコン部は、他の部と違って1年に何度か大会やコンクールがあるのではなく、夏休みに一度だけパソコン検定があります。それだけに部活中は、タイピング練習をしてタイピングが速くなるようにがんばったり、パソコンの知識を学んだり、部員が検定にかける思いは強いのです。次のパソコン検定は、まだ半年以上もあります。しかし、その検定に向けて練習をがんばらなければならないので、応援をよろしくお願いします。（廊下にあふれ出る楽しそうな話し声と、静けさの中でキーボードをたたく音が交錯する部活動です。）



参加した一年生の竹本光陽君は「寒空の下、大声を出し続けたこの日のことは一生の思い出になった。募金をしてくれた時のうれしさと呼びかけに答えてくれた心優しい人達のことをほかの人にも伝えていきたい、二年生の戸田莉子さんは「世界の子どもの笑顔のために」を合言葉に、最後には寒さを忘れるくらい温かい気持ちになった。私たち一人ひとりがボランティアに参加することで、その輪が日本中に広がり、大きな力となって、世界の恵まれた子どもたちにも笑顔が届けられたら」と笑顔で話していた。同校によると、募金活動の結果、十六万円余りが集まり、今後ユニセフへ募金する。



朝読書前に、ほうきとチリトリをもって階段掃除をしてくれている女子生徒が数名います。「おはようございます」と気持ちの良い挨拶もしてくれます。学年ルームの机とイスをきれいに並べ直してくれている男子生徒がいます。受け答えもハキハキしています。まだ校内が暖まりきっていない朝、スポンジを使って水飲み場の清掃をしてくれている女子生徒がいます。冷たい水を出しながら、腕まくりをしてくれくれます。私達は、ボランティア活動から本当のボランティアの意味を見出ししてほしいと願っています。大人の私達自身が見習わなければならないことに気づかせてくれる生徒が本校には多いと思います。

「寒いのにわざわざ手袋をはずしてお金を入れてくれて、「がんばってね」と言ってくれて、うれしくなった。お金を入れてくれる度に、みんなで大きな声で「ありがとうございました！」と言うと、笑って返してくれたので、気持ちが良かったです。」
「募金をしてくれたり「がんばってね。」と声をかけてくれる人達は、私達にとっても励みになったし、もっと頑張ろうという気持ちになりました。生まれて初めてのボランティア活動が、ハンドインハンドでよかったです。」
〜一年二組の感想文から〜
平成三年十二月から本校が続いているハンドインハンド募金活動は、今年で二十二回目（途中一度だけ、猛吹雪のため中止になっていますが）を迎えます。一・二年生の有志だけが参加することになっているのですが、「正しい募金方法のあり方」等の事前指導で三年生からダメ出しを受けたり、当日もかなりの三年生が買物公園へ応援に駆けつけるなど先輩の指導力がとても大きいと思います。

■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成24年12月21日

◇第20号◇